

## 事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 10 月 1 日

事業所名 コペルプラス 武蔵藤沢教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			
	②	職員の配置数は適切である	6			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・段差が少なくフラットな床の構造である。</li> <li>・トイレや訓練室に子どもの目線でわかりやすく、靴の着脱の仕方や手洗いについての絵カードを掲示している。実際、子どもたちがその絵を見ながら靴を履き、手洗いをしている。</li> <li>・トイレは広い作りになっているので、大人と一緒に子どもが入り使用することが出来る。</li> </ul>	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日終業時に清掃を行い、感染予防や清潔維持に努めている。季節の変わり目など、エアコンや空気清浄機の清掃を行い、環境整備に努めている。</li> </ul>	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュレや通常療育など計画を立て、目標設定し、職員間で PCAD を行い、改善に努めている。</li> </ul>	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1		
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			

	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6			(第三者評価実施なし)
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			・法人または事業所内で行われている研修に積極的に参加している。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			・個別支援計画作成前に職員間で会議を行いアセスメントを実施し、情報共有して支援計画の作成に努めている。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			・初回のアセスメント時に同じ教材を用いて実施している。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	2		・発達支援について、お子様の発達段階に合わせたプログラムや教材を使用して療育を行っている。 ・家族支援、地域支援については、実施に向けて検討していく。

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			・支援計画に基づいて、項目の目標達成に向け療育に取り組んでいる。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1		
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1		
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4	2		・集団療育を行う際にはお子様の特性や発達段階、お子様同士の愛称を考慮してクラス編成を考えている。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	2		・その都度、支援内容やお子様の変化、拝領事項について伝達記録している。また必要に応じて支援会議を開催している。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1		・その都度、支援内容やお子様の変化、拝領事項について伝達記録している。また必要に応じて支援会議を開催している。

	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		・日常のサービス提供実施記録は療育を行ったその日のうちに記録している。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	1		
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	1		
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/	/	・該当の利用者がいない。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/	/	・該当の利用者がいない。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		・現在、移行支援が必要な利用者はいないが、必要に応じて実施していく。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		・小学校入学時に保護者の要望があり、情報共有を行った、必要に応じてこれからも実施していく予定。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	・相談支援専門員を通じて専門的な助言を頂くことがある。	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		6	・これからも、地域の保育園、幼稚園と関係機関連携を継続して図っていく。	・教室内の療育サービスの趣旨から、利用者以外のお子様との交流はよていしていない。

	㉙	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		6		・地域の関係機関から情報を得て、参加する方向で検討する。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		日頃より保護者様よりご家庭や通園先での様子を伺い、必要に応じて助言を行っている。	

保護者への説明責任等	⑳	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	6		・本年度から全6回の予定でペアレン講座を平日に開催している。 定期的に参加して下さる保護者の方もいらっしゃる。これからも保護者のニーズを捉え、家族支援プログラムを提供していきたい。	
	㉑	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		・契約時に説明している	
	㉒	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			
	㉓	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
	㉔	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6	・実施には至っていないが、保護者のニーズを捉え、保護者同士の連携支援を行いたい。	
	㉕	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		・時間を設けて、相談を速やかに行っている。	
	㉖	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		・LINEやブログで情報を発信し、必要に応じておたよりを作成して、情報を伝えている。	
	㉗	個人情報の取扱いに十分注意している	6		・紙媒体のものは鍵付きロッカーに保管し、毎日施錠している。必要なくなったものはシュレッダーにかけている。電子媒体のものは、パソコンにパスワードを設定し、ウイルス感染予防ソフトをインストールしている。	
	㉘	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている			・現在、該当する利用者や保護者はいないが、必要に応じて対応していく。	

	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6		・サービスの性質上、地域の方々を招いて行事を行う予定はないが、近隣の方々には事業内容のご理解を頂けるよう関わりを持っていくように努める。
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	1	・各種マニュアルについて職員間で研修及び共有を行っている。	・
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3	3		・アセスメントの際に、服薬、アレルギー、病歴について確認を行ってきたい。
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている		6	・教室で飲食する機会がないため、対応していない。	・医師の指示書を保護者に求めている。
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		・事例が発生した場合、対応の仕方を職員間で協議し、本部へ報告している。	
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		・各種マニュアル同様、内部研修を継続して実施していく。	
	④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	3	・保護者様には契約時に説明し、同意を頂いている。職員への周知も同時に図ってきたい。	・現在の利用者さまで、支援計画に記載しなければならない方はいない。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。